

目次

01 はじめに P.4

02 東京iCDCの概要 P.6

- ・東京iCDC専門家ボードメンバー一覧
- ・東京iCDCの体制図

03 東京iCDC立ち上げ P.9

- ・東京iCDC立ち上げの経緯
- ・専門家ボードとタスクフォースの設置

04 東京iCDCの主な取組（一覧） P.15

- ・令和2年度から5年度までの主な取組
- ・東京iCDCによる東京都モニタリング会議報告事項(一覧)

05 【参考】東京都の対策 P.23

- ・第1波から第8波までの取組
- ・世界各国の感染状況

06 各チーム、タスクフォースの主な取組 . . . P.29

- ・東京iCDCが行った新型コロナに係る調査・分析、情報発信等

07 感染対策支援チームの設置と取組 P.103

- ・クラスターが発生した高齢者施設等の感染対策を支援する「感染対策支援チーム」の取組

08 東京iCDCによる海外発信 P.107

- ・東京iCDCの取組の海外への発信及びネットワーク構築に向けた取組

09 まとめ P.111

- ・東京iCDCの新型コロナへの対応の振り返りと今後の取組について

10 リンク集、索引 P.117

はじめに - 専門家のインテリジェンスネットワーク「東京iCDC」 -



東京都知事
小池百合子

東京都は、令和2年10月1日、感染症対策を強化するため、「東京iCDC」を立ち上げました。その強みは、常設の「専門家ボード」のメンバーである先生方の科学的知見と豊富な経験、緊密なネットワークにあります。

新型コロナウイルス感染症との闘いは、都内で最初の感染が確認されてから1,200日に及びました。幾度の感染拡大の波を、東京都一丸で乗り越えてきました。

未知の感染症との闘いの日々は、「都民の命と健康をどのようにしたら

守れるか」という試行錯誤の連続です。その中で、確かな道標となったのが、東京iCDCの専門家の皆様の的確な助言、そして献身的なご協力に他なりません。

新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の5類に位置付けられ、対策は新たなステージを迎えています。しかし、歴史上、様々な感染症と対峙してきた人類にとって、コロナのみならず、いつ現れるともしれない未知のウイルスは大きな脅威です。新たな感染症にも揺るがない、強靱な都市へと進化する。危機からの持続可能な回復、「サステナブル・リカバリー」を果たす土台となるのは、困難の中で、時に暗中模索しながら積み重ねてきた知見や経験です。

東京都は今後も、東京iCDCの専門家の皆様と共に、感染症への備えを不断に固め、都民の皆様の安全安心を確保してまいります。

令和5年(2023年)7月

東京都知事

小池百合子



東京iCDC所長
賀来満夫

感染症に国境はなく、人々の活発な移動が広がり加速させます。

すべての人が罹患しうる疾患であり、個人だけでなく、社会全体の危機となります。そのため、社会全体での情報共有や連携協力、リスクコミュニケーションなどを含めたソーシャルネットワークの構築が、感染対策を行う上で大きな鍵となります。

特に、感染症に関する最新情報や科学的な知見、エキスパート・オピニオンに基づく助言や支援を行う専門家の存在は欠かせません。

東京iCDCは、効果的な感染症対策を一体的に担う新たな組織として、これまで東京都の感染状況とそれぞれのステージに応じて助言等を行ってきました。その取組は、80名を超える専門家のインテリジェンスネットワークにより支えられており、東京都における感染症対策のソーシャルネットワークの構築に、専門家が支援協力していくという、これまでにない新たな取組といえます。

本書は、東京iCDCの立ち上げから、都の新型コロナ対策を支えてきた主な取組をまとめたものであり、都が掲げる「サステナブル・リカバリー」を実現するため、貴重な知見・経験の記録として残していくことを目的としています。

100年に一度ともいわれる、新型コロナウイルス感染症パンデミックに対応してきた、この3年間に亘る経験を、今後発生しうる未知なる感染症の危機に備えるため、皆様と共有してまいりたいと思っております。

令和5年(2023年)7月

東京iCDC所長

賀来満夫